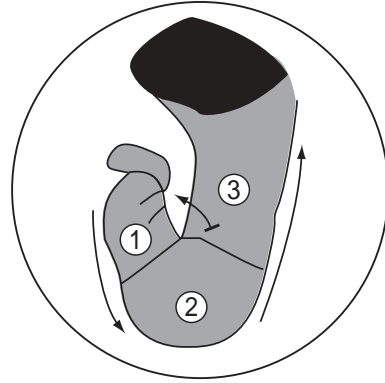




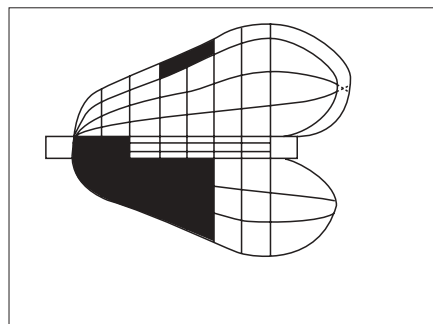
a 撮影のポイント

造影剤がよく附着してから右腰を上げていき、前庭部に造影剤が残らないように注意しながら第1斜位をとらせる。
 体位は、目的部位である幽門前部から前庭部にかけて最もひろく描出する体位で、胃角寄りの体部小彎と前庭部小彎が交叉し、前庭部が椎体からなるべくはずれるような角度にするとよい。
 蠕動波をやりすごし、前庭部が最も膨らんだところで撮影する。



b 透視観察のポイント

前庭部をみながら体位を決定するため、撮影前にあらかじめ前庭部を主体に辺縁をチェックしておくとうい。また、造影剤の付着の確認もしておく。
 前庭部小彎から始め、矢印のように辺縁に沿ってチェックする。また、体部大彎のチェックも重要である。
 粘膜面は図のように3区分し、1, 2, 3の順に粘膜面をチェックするとよい。体部大彎の粘膜面も要チェックである。
 他の体位へ移行する際の造影剤の流れは注意深く観察しておく（他の二重造影でも同様）。



c 描出領域

目的とする部位は、幽門前部から前庭部にかけての後壁面が主体となるが、他の部位ももちろん描出されていなければならない。

図58 背臥位二重造影第1斜位像